

## 令和元年 第3回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 令和元年7月24日(水)  
午後1時00分～午後4時20分
2. 開催場所 柏原市教育委員会 会議室
3. 出席した委員
- |       |         |
|-------|---------|
| 教 育 長 | 新 子 寿 一 |
| 委 員   | 山 崎 裕 行 |
| 委 員   | 田 中 保 和 |
| 委 員   | 近 藤 温 子 |
| 委 員   | 西 村 弥生子 |
4. 出席した職員
- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 教 育 監           | 岡 本 泰 典   |
| 教 育 総 務 課 長     | 寺 川 款     |
| 指 導 課 長         | 石 田 智     |
| 教 育 総 務 課 長 補 佐 | 栗 田 聖 子   |
| 指 導 課 長 補 佐     | 浅 田 千 佐 子 |
| 学 務 課 指 導 主 事   | 甲 村 文 彦   |
| 指 導 課 指 導 主 事   | 北 野 典 子   |
| 指 導 課 主 査       | 川 口 裕 之   |
| 指 導 課 主 査       | 菰 池 孝 彰   |

### 5. 議事案件

議案第31号 令和2年度柏原市立中学校使用教科用図書の採択について

議案第32号 令和2年度柏原市立小学校使用教科用図書の採択について

### 6. 報告事項

### 7. 会議録の承認及び会議の要旨

新子教育長： それでは、令和元年第3回定例教育委員会会議を開催します。  
本日の会議録署名は、西村委員、お願いいたします。

それでは、本日の議事に入ります。

本日の議案は、2件ございます。

本日の議案であります教科用図書の採択については、時間が非常にかかりますので、委員及び関係課のみで進めてまいりたいと思います。

また、かなりの時間をかけて一つ一つ選定していきますので、本日終了しない場合、別の日程で、臨時会を開くこともあります。委員の皆様、よろしいでしょうか。

委員全員 : はい

新子教育長 : まず、議案第31号、「令和2年度柏原市立中学校教科用図書の採択について」であります。指導課長より説明をお願いします。

石田課長 : まず、本日の資料を確認させていただきます。本日の資料ですが、「次第」、「各教科ごとのメモ用紙」、「令和2年度小学校教科用図書一覧」、「平成31年度使用小学校教科用図書一覧」、「平成31年度使用中学校教科用図書一覧」、最後に「資料：2020年度（新元号2年度）使用教科書の採択事務処理について（通知）」の6点をクリップ止めしております。また、別冊として、「令和2年度使用柏原市立小学校教科用図書の選定について（答申）の写し」をホッチキス留めしております。小学校教科用図書については、後程ご審議いただきますが、今年度は中学校教科用図書の採択替えの年でもございます。

中学校教科用図書の採択については、資料にございます、平成31年3月付け文科省通知「2020年度（新元号2年度）使用教科書の採択事務処理について」をご覧ください。その中の、1採択に当たっての留意事項について「(2)中学校用教科書の採択について」の中で、次のように述べられています。「『特別の教科 道徳』以外の教科書について新たに採択を行うこととなるが、平成30年度検定において新たに合格した図書がなかったため、基本的には前回の平成26年度検定合格図書等の中から、採択を行うこととなること。（中省略）例年どおり、採択権者の判断と責任により、綿密な調査研究を踏まえた上で、適切に採択が行われることが必要となるが、その際、4年間の使用実績を踏まえつつ、平成27年度採択における調査研究の内容等を活用することも考えられること」従いまして、本市においては、平成27年度採択における調査研究内容及び学校と子どもたちの実態を鑑み、クリップ留めの資料にもあります「平成31年度使用中学校教科用図書一覧」のとおり、現在使用の教科書をそのまま使用することが望ましいと考えます。ご審議お願いいたします。

新子教育長 : いかがでしょうか。

委員全員： 異議なし。

新子教育長： ありがとうございます。それでは、令和2年度柏原市立中学校教科用図書については、現在使用しているものをそのまま使用することとします。

続いて、議案第32号、「令和2年度柏原市立小学校使用教科用図書の採択について」であります。去る5月16日に教育委員会から、「柏原市立小学校・中学校教科用図書選定委員」の委嘱を行いまして、委員の皆様を選定について諮問させていただいたことは、皆さんもご承知のとおりです。本日その答申をいただくことになっておりますので、まずはその答申を教育監からお願いします。

岡本教育監： それでは、諮問いただきました件について答申をいたします。

本日お渡ししている資料に、答申の写しを付けております。その2枚目以降が答申の内容でございます。この内容につきましては、選定委員会における審議により作成しております。先ほど教育長よりご説明がありましたとおり、5月16日に、まず選定委員会を立ち上げました。専門的で適正な調査を行うため、各教科につき3名の調査員をおいて、調査・研究を行い、その結果を選定委員会に報告いただきました。また、柏原市の教育研究会と各小学校からの意見も報告いただき、選定委員会の資料といたしました。併せて6月5日から7月3日にかけて教科書の法定展示と法定外展示を行いましたところ、市民15名が閲覧され、その内4名の方からご意見を頂戴しましたので、それにつきましても選定委員会の参考資料とさせていただきました。そして7月4日に開催されました第2回選定委員会では、事務局によるプレゼンの後、委員全員で全ての教科用図書について審議を行いました。

教育委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、事前に全発行者の教科書と、教科書編修趣意書、大阪府教科用図書選定審議会の資料、柏原市教科用図書調査員からの報告書及び各教科研究部、各校からの意見書に目をとおしていただいていると存じておりますが、本日は、選定委員会での意見も含めた事務局のプレゼンをお聞きいただいた後、採択に関して審議を行っていただきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

新子教育長： その他、指導課長より補足があればお願いします。

石田課長： これからのご審議の資料としましては、ホッチキス留めの「令和2年度使用柏原市立小学校教科用図書の選定について（答申）写し」と、「教科書見本」3セット、「調査員からの報告書と、各学校、柏原市教育研究会からの意見書、教科書センターで閲覧した市民の意見書を綴ったファイル」をご用意しておりますので、必要に応じてご覧ください。ファイルにあります市民の意見書等は、予めご覧いただいているものでございます。後ほど、様式「教育委員会議教科

書センターご意見」に押印或いはサインをお願いいたします。

それではこれより事務局から選定委員会でのご意見等を含めて各者の説明をさせていただきます、そのあとご審議いただきたいと思います。なお、発行者につきましては、目録にあります略号で呼ばせていただく場合もございます。

新子教育長： それでは、事務局から各者についての説明をお願いします。

川口主査： それでは生活について説明いたします。

生活につきましては、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、光村図書、啓林館、日本文教出版の7者が発行しております。

まず、「目標・内容の取扱い」についてですが、各者とも生活科の目標達成のための適切な内容が取り上げられております。光村図書について、上の3ページを見てください。「『ホップ』『ステップ』『ジャンプ』の学習過程で児童が考え、表現する内容が取り扱われている」と大阪府の選定資料に書かれております。

次に「人権の取扱い」ですが、各者とも人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料等が適切に取り扱われております。啓林館について、下の38、39ページを見てください。「挿絵には、幼児、高齢者、外国人、障がいのある方などが描かれており、多様な家庭環境等に配慮している」と調査員からの意見がございます。

次に「内容の程度」ですが、各者とも児童の発達段階に応じた分量とわかりやすい表現で記述されております。日本文教出版について、下の50ページを見てください。「小单元ごとに『知識及び技能』『思考力・判断力・表現力』『学びに向かう力、人間性』の『三つの柱』に対応しためあてが提示されている」という意見が調査員からあがっております。

次に「組織、配列」ですが、各者とも各学年の目標や内容を踏まえて教科横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されております。また、ページの構成についても、わかりやすく配置されております。学校図書について、上の8ページを見てください。「各单元が『どきどき』『いきいき』『ふむふむ』『にこにこ』の4つの段階での单元構成になっている」と大阪府の選定資料に書かれており、「わかりやすく実践しやすい单元構成になっている」という意見が調査員からあがっております。

次に「創意工夫」ですが、各者とも身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されております。東京書籍について、上の124ページを見てください。「『ほんとうのおおきさ ポケットずかん』で、本当の大きさの動植物が載せてあり、より分かりやすい」という意見が教科部会からあがっております。

次に「補充的な学習・発展的な学習」ですが、各者とも学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを他の学習

や生活に生かしたりするよう配慮されております。教育出版について、上の127ページを見てください。「上下巻の巻末に各教科の知識や技能を整理する『学びのポケット』があり、生活科と他教科を繋ぐ資料になっている」と調査員から意見があがっております。

「幼小中一貫教育の観点」についてですが、各者とも幼稚園や保育所で体験したことをふまえ、小学校での学習につながるように配慮されております。大日本図書について、上の18ページを見てください。「幼稚園や保育園で育ててきた植物について振り返ることで、1年生での活動をスムーズに行うことができるように工夫されている」との趣旨の意見が調査員からあがっております。

最後に選定委員会の審議について報告します。

大日本図書について、下の30ページを見てください。モノクロで想像させ、ページをめくるとカラーで示されている。また、下の113ページを見てください。透明のシートがあり、昼と夜の街の様子を比較することができる。このように、「低学年の子どもの興味関心を膨らませやすいような工夫がされている」という趣旨の意見がありました。また、表紙を見ると、「触感を大事にしている興味を引きやすい」という意見がありました。

光村図書について、「イラストや実際の写真が分かりやすいが、文字が小さい」との意見があり、日本文教出版についても「文字や見出しが小さい」との意見がありました。大日本図書については「文字の大きさが大きく、ページ量が適量であり、流れがわかりやすい」との意見がありました。

啓林館については「教科との系統性が考えられているが、教師の力量がいる」という意見がありました。

説明は以上でございます。

新子教育長： ありがとうございます。ご意見どうですか。

山崎委員： まず幼稚園や保育所との関連でいうと、どの教科書会社にも「スタートページ」というのがあります。うまく作っているなど、幼稚園や保育所と繋がっているなという感じは持てました。特に東京書籍のほうは、量も多くて丁寧にできているなという感じが致しました。その後、教科書会社いくつか見ていきたいと思いますが、大日本図書なんです。五感を使って、体験で感じた事等、具体的に書いてある所が良かったと思います。例えば、「動物となかよし」のところには、「ドクン・ドクン」とか「ピッ、ピッ」とかというような言葉があって、「虫の不思議」では、「コウロギの足がギザギザになっている」とか、こういう、生活科というのは教科書で勉強するんじゃなくて、時間がかかるんですけども、外に連れて行ってやったり、あちこち体験をさせる、経験をさせるということがとても大事なんで、そういう五感を使ったようないろんな表現の仕方というのは是非、載せてやりたいなと思いました。また3年生からの理科・社会

に繋がるような内容になっているなというの、大日本図書の特徴でした。それから、先ほどもありましたが、他の教科との関連付けて指導ができるように、音楽・図工・体育・国語など、出ておりましたから、こういう他の教科との関連というのもうまく出来ていました。それから、所々に「きらきらことば」「生活言葉」というのがありまして、特に1年生なんかだったら話し難い、みんなの前で発言し難い、発表し難い子どもにとっては、こういう雛形があると話しやすいなという気がいたしました。あとは、1点ちょっと僕はこれどうかなと思ったんですけど、巻末の「がくしゅう どうぐばこ」というのは、例えばね、この中に「じぶんのあんぜん」なんていうのがあるんですけども、あるいは「どうぐをじょうずに つかおう」なんてのがあったり、「おちば」があったりするんですけど、先ほども言いましたが、教科書でみんな、こう教えてしまう、図鑑みたいにしてしまうんじゃないで、おちば」だったら、こんなとこにたくさん載せないで、教科書に載せないで、外へ連れて行ってやる。公園とか校庭に連れて行ってやって、いっぱい落ち葉を拾わせて、そしてその落ち葉がなんの落ち葉かなっていうことを、図鑑で調べたり、図書館で調べたり、図書室行って調べたり、先生に聞いたり、大きな子に聞いたり、いろんなことを経験させてあげたいな、という思いがあります。そういうことでいけば、ちょっと「載せすぎ」、この「どうぐばこ」載せすぎと、これ、先生の工夫でいろんな勉強をさせてやりたいなというのが、思いました。そういう意味では、啓林館のほう巻末の学習図鑑というのは、「調べる・記録する・考える・まとめる・伝える」などの学習の方法が載っておりまして、先ほども言いましたように、「どうぐばこ」みたいな物があるんですけども、ちょっと大日本よりも少なくですね。これのほう子ども達にいろんな実際の体験をさせてやれる教科書だなという気がいたしました。

啓林のほうにいきまして、子どもの会話文が吹き出しでたくさんありました。子どもの絵日記もたくさんありました。1・2年生の生活科ですので、こういうのはとても分かり易いと思います。それから、活動の中で生まれた気づき、あるいは、もっとしたい、どうしたらいいかなという子どもの思いや願いが次の活動につながるような工夫というのがありました。これが生活科で一番大事なところだと思うんですが、啓林館はうまく作っているなという気が致しました。東京書籍の方ですけども、A4版の大判で大変大きくなっておりまして、1年生でしっかり、内容でも豊富だなという気が致しました。巻末のですね、季節ごとの動植物を実物大で書いてるんですけど、大判だからできたんでしょうけど、本当にこんな実物大にする必要あんのかなと、さっきも言いましたように、そんなことより連れて行ってあげて欲しいなということが、思いました。巻末の「べんりてちょう」。これは、学習の方法等が載っておりまして、適切だなと。「道具を使おう」というのも、必要最小限で、良かったなと思いました。それから、上巻の東京書籍の方ですけども、上巻最初の1ページから13ページ「どきどきわくわ

く1ねんせい」スタートページ。これは一番最初に言いましたが、とても良く、丁寧に書けているし、幼児期との繋がりを大切にしてくまう出来ているなという気がいたしました。ちょっと、全者ちょっと簡単で失礼させていただきます。自分の思ったことなんです、日文の方は、表題の最初にタイトルと子どもの言葉がありまして、子ども達に授業を分かり易くしているなという気がいたしました。次欄に「学習のめあて」これは先ほど、お話ありましたが、学習のめあてが書いてあって、これは先生にとって指導がし易いなという気がしました。それから、最後に「まなびの まど」。これが、「振り返る・つなげる」そして次の学習につなげる活動になっているなと思いました。巻末の「ちえとわざのたからばこ」も、東京書籍のようなあんなA3のではないので、適切かなという感じがいたしました。

学校図書ですが、これも教材の最初の見出しが、子どもの言葉で会話形式になっていて、問いがあって子どもの言葉で答えがあるという、これもとても分かり易い導入の部分だなという気がしました。巻末の「学び方図鑑」これも、量としては適切な量だなと思いました。それから、教育出版ですが、教材の終わりに何を感じたのかなという言葉がありまして、振り返りの時間をつくって、自分で考えて振り返って次の目標を持つという、そういう視点でできておりました。巻末の「まなびのポケット」も量は少なく適切だったなと思いました。目次のところで何月に何をするかというのが出てきて、これは教科書には、あの先生の判断でやっていただきたい中身であって、これはいらぬかなという気がいたしました。

それから光村の方、「ホップ・ステップ・ジャンプ」の3つの段階に分けて学習が進められていますが、これは1・2年生にとってあんまり、どういう意味があるのかなという気がいたしました。それから、子どものノートが教科書に載っていましたが、文字がちょっと小さくて見難いなと。特に1年生の上巻では、こんな小さいのはちょっとしんどいなという気がいたしました。

以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

田中委員： 生活ということで、自然をしっかり見てもらおうという観点でいきますと、東京書籍のほうが、写真が、イラストも含めて豊富だったかなと思います。で、それと、幼稚園から小学校へ入る時の導入のところですかね、上の部分が東京書籍と啓林が学校へ入る時のそのいろんな学校の生活に慣れるための導入の部分がすごく充実しているかなというふうに思いました。あとは、大日本は子どもの関心を持たせるようなところがあるのでそこはよかったかなと思います。あと、特に啓林の何ページですかね、16ページ、「安心・安全」の所で、上です。「いかのおすし」って何かなと思ったら、「いかない・のらない・おおごえ

をだす・すぐに逃げる・しらせる」こういうのがね、なかなか分かり易くて、本当に小学校へ入る時に気をつけて欲しいことが書いてあるんで、ここはいいかなというふうに思います。

以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。近藤委員お願いします。

近藤委員： 大日本図書なんですけど、さっきから話が아가っているように表紙や中身に絵本のような工夫があって子どもの関心や興味をととても引きそうだなと思いました。子どもの絵日記やカードなどが多く載ってまして、書くときには参考にできそうだなと思いました。それから、本があまり重くないのは、ありがたいなと思いました。

啓林館です。先ほどお二人の委員の先生方からお話がありましたように最初の所の小さいスタートブックのところと、それから、本当のページに入った少しいったところにも、通学の安全と学校の安全があるのが、最初の方にあるのがすごくいいなと思いました。それから字が読み易いなと感じました。

学校図書についてなんですけど、朝顔についてとても詳しく載っていて、何ページにも渡って、ピックアップして載ってました。上巻は生き物の紹介のイラストが多くて、特徴は良く分かるなと思いました。春・夏・秋・冬で主要な生き物の特徴が絵で載っています。それから、下巻で「町の様子四季」というページがあるんですけど、そこからページをめくると、春・夏・秋・冬と同じ場面の絵があるのが、楽しいなと思いました。

以上、3者がいいんじゃないかなと思いました。

新子教育長： はい、ありがとうございます。

西村委員： 大日本図書はちょっと違う感じで、あっ、こんな教科書もあるんだなと思って、内容も、いろんなイラストが、配置とか、工夫がととても仕掛けがたくさんあって、ここから興味の広げるきっかけが作りやすいような教科書ではあるなというふうな、好感を持てるところがありました。また、ページの質といますかちょっと全体的にやっぱり軽目なので、これは新入生にとつたらとても、他の教科書も全部含めると重くなってしまうので、いいことだなと思いました。実物を見る写真とかがもし必要であれば、ほんとに実物を見ればいいかなというふうに思いました。教科書のサイズとしては、これくらいが適当なのかなというふうに思いました。啓林館のほうは、先ほどの高学年の流れのページは一緒のようなものをしっかり出しているなというふうに思います。同じように目的から検証していく流れが、子どもの言葉、いきいきとかそういう表現ではありますけれども、しっかり作りこんである印象で、ページの右

端の「次なにがあるんだろう」というふうな、すごく分かり易くなっていて、必要な情報が、とてもバランスよく配置されているように思いました。

以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。

ご意見をいただきまして、どのようにさせていただいたら。大日本図書、啓林館というのが多かったように思うんですけども。興味・関心を引くというようなところでは、大日本図書の、その、今までにないような、表紙の特徴があったり、軽さ、学年から考えて、そういったところのご意見があったように思うんですが。

山崎先生、いかがでしょうか？

山崎委員： そうですね、あの僕も、大日本図書は大日本図書でいいところがあるし、啓林も。

田中委員： 啓林もね。そうなんですよ。

山崎委員： なかなかいいなと思ってたんですけどね。先ほども話させてもらったように、大日本図書は丁寧に作られていて、先生方にとったら、教えやすいのかなという気が致しました。ただね、僕は例えば生活科なんかもちよっと教えた事があるんだけど、子ども達にね、糊を、紙に糊を付けるときに、中指で糊、付けなさいと、で、人差し指と親指は残しておいて、中指で付けて、人差し指と親指でこ紙を摘んでね、次の作業をするんですよと言う。だから必ず中指を使いなさいね、ということをお教えたんですけども、そういう指導をすると「ほー」というのが子どもたちの話の中身なんです。教科書にでてきてしまうってね、「これこうしなさいよ。」って言うんじゃないかと、やっぱりそういうことを先生から教えてやりたいなという、そういう気がするんです。そういう意味では、啓林館のほうがあれなんだけど、先生にとっては、教科書に載っていたら、啓林館にも載ってますよ、載ってますけど、東京書籍、大日本の方がより詳しく載っているんで、載ってた方が楽は楽なんだけど、子どもにとっての感動なんてのは、やっぱり、あんまり載せない方がいいのかなと、考えさせてあげたいなという気はするんですけどもね。以前もこういうふうになった時に、教育長、挙手でやられてたときもあったので、そんな事も最終的にはね、意見がまとまらなかつたら、挙手していただいてもいいかなとも思うんだけど。

新子教育長： 大日本、啓林館というのが皆さんの意見の中にも非常に多くのご意見をいただきましたので、田中委員どうでしょうか。

田中委員 : その二つのどちらかということですか。

新子教育長 : はい。私はそういうふう感じたんですけども。

田中委員 : どちらかにとういうことであれば、私は、自分自身がもともと理科の教員なんで、理科的な啓林のほうがしやすいとう感じがしますけども。

新子教育長 : そしたら、挙手ということで。

【挙手の結果】啓林2、大日2

山崎委員 : 使いやすい方でどうか。

新子教育長 : では、私は大日本に。小さくて軽くて子どもたちにはいいかなと。とういうことで最終的に大日本のほうで。

川口主査 : それでは理科について説明いたします。

理科につきましては、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館の5者が発行しております。

まず、「目標・内容の取扱い」についてですが、各者とも理科の目標達成のための適切な内容が取り上げられております。啓林館について、6年生6ページを見てください。「問題解決に必要な力を養うために、その過程や進め方を、巻頭の『自然の不思議をとき明かそう！』で示している」と大阪府の選定資料には書かれております。また、学校からは、「目標や内容について適切であり、様々な分野の資料を使用している」という意見があがっております。

次に「人権の取扱い」ですが、各者とも人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料等が適切に取り扱われ、また児童の安全について適切に扱われております。東京書籍について、5年生112ページを見てください。「実験の手順を文字だけでなく、写真や図などでも示し、視覚的にとらえることができる」と調査員から意見があがっております。

次に「内容の程度」ですが、各者とも児童の発達段階に応じた文の量とわかりやすい表現で記述されております。学校図書について、6年生36ページを見てください。「重要語句について本文上で太字にし、同ページの本文外に『大事な言葉』として取りあげられている」と大阪府の選定資料には書かれております。

次に「組織、配列」ですが、各者とも各学年の目標や内容を踏まえて教科横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されております。また、ページの構成についても、わかりやすく配置されております。教育出版について、6年生113ページを見てください。「算数科との関連について『算数とのつな

がり』で示されている」と大阪府の選定資料には書かれております。

次に「創意工夫」ですが、各者とも理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されております。啓林館について、3年生31ページを見てください。モンシロチョウの成虫の体のつくりに関してQRコードが付いております。教科書の写真だけでなく、動画でモンシロチョウの成虫の体のつくりが理解できるようになっております。教科部会からは、わかりやすく家でも自分で調べることができるという趣旨の意見がございます。

次に「補充的な学習・発展的な学習」ですが、各者とも学習した内容を確実に習得できるよう、学習の内容や過程などを振り返ったり、学んだことを生活に生かしたりするよう配慮されております。大日本図書について、5年生61ページを見てください。「単元末に『りかのたまてばこ』があり、学習内容に広がりを持たせ、一步踏み込んで考えていきたい内容について記載されている」という趣旨の意見が学校からあがっております。

最後に、「幼小中一貫教育の観点」についてですが、各者とも小学校で学習した内容を補足、発展して学習できるように配慮されております。東京書籍について、6年生66ページを見てください。「理科の広場」の中の「はってん」では、「中学校2年で学ぶこと」のように、他学年や中学校での学習内容へのつながりが示してあり、より深く学べ、小学校での学習内容がなぜそうなるのかが分かるようになっている」という趣旨の意見が調査員からあがっております。

最後に選定委員会の審議について報告します。

啓林館6年生6、7ページを見てください。「学習の進め方が分かりやすくて良い」という趣旨の意見がありました。また、9ページを見ると「それぞれの単元の初めにめあてがあり、また既習の事項にもつながっているので良い」という意見も上がっております。10、11ページを見ると、「学習の道筋がはっきりしていて、経験の浅い教員にとって良い。実験観察も手厚く、写真も身近なものを使っている」という趣旨の意見がありました。また、「文字の大きさが適切でUDフォントが使用されている」という意見もありました。

同じく、啓林館6年生の27ページを見てください。唾液によるでんぷんの変化を見る実験について、「他者はこれまでと同じく唾液を直接入れる実験のままだが、啓林館は綿棒を活用している。実験に抵抗感がなくなって良い」という趣旨の意見がありました。

同じく啓林館6年生の180ページを見てください。プログラミング学習について、「巻末についている『プログラミングシート&シール』でパソコンなしで学習できるところが良い。他者はパソコンがないと指導が難しい」という意見がありました。

啓林館のQRコードについて、「以前の教科書はアプリでできていたことだが、見たい部分を一覧表で探さないといけなかった。今はページごとについて便利だ」という趣旨の意見がありました。



問題解決学習という形がきちんとできている。全者とも問題解決学習をきちんと進めていただけていますので、私も経験でいえば40年前でしたら、理科でも暗記教科になりかねないということもあたりして、例えば「めしべ」とか「おしべ」とか「花びら」とか「茎」だとか「根」だとか、教科書で覚えさせて、観察するよりも、覚えさせてテストでかっこに穴埋めさせるというような、そういう理科学習も小学校では行われていたようなこともあったわけですが、ずいぶん主体的な学習というのが、自分で問題を見つけて解決していくというような形が全者とも作られているように思っています。特に啓林の方は巻頭に「みつける」「調べる」「ふりかえる」という流れができているということ。単元の導入部分でも学習のめあてを思い出してみよう、はじめに考えてみようという、子どもたちに課題を見つけさせるようにできている。授業に入りますと、今度はそれぞれの授業の中で問題をつかもう、問題、予想、観察、実験、結果、まとめという流れがきちんとできているということで、各者ともあるんですけども、啓林がきちんと丁寧にされているなという気がしました。それから巻末の何年の理科を振り返ろうというところにはノートのとまとめ方、話し合いの仕方が書いてあって、対話的という言葉が今回の改訂の中では大事な視点だと思うので、これもきちんとおさえられているなという感じが致しました。東京書籍の方は巻頭に問題、観察、実験、まとめという流れがあるんですけども、目次が大きな流れでまとめて書いてあるので何ページにこういうテーマで学ぶんだよという所を出してくれたらいいのに、大きなくくりで書かれているので、理科の好きな子は教科書の中を見るよりも目次を見て、「次の時間、単元はこれやねん」と、「ここがおもしろいねん」とか、「これ好きやねん」とか、「次はこの実験はいんねん」と見ていくのが大好きなんでね。目次はこんなややこしいことせんでもいいのになという感じがしました。それからもう一つ東京書籍の場合はA4版の大きいサイズなんで、写真やイラストが大きくて楽しいんですけど、見ていて面白いんですけど、見出しとか問題、まとめがものすごく大きな大文字にされていて、こんな大きな文字にする必要があるのかな。A4版だからできるんだろうけども、そこまでする必要はあるのかなと。あるいは写真イラストに吹き出しがいっぱいいつているんですけども、吹き出しもこんなにたくさんいるかなと。これは教科書を大きくしたからこんなふうになってしまったのかなという感じがしまして、そういう意味ではちょっと大きすぎるのかなという気がしました。大日本図書の方は、やっぱり問題解決学習をしっかりやられているんですけども、単元末に「発展」とか「理科の玉手箱」「学んだことを活かそう」というのがありまして、学んだことを更に進める学習に目を向けさせているところが会社の特徴やなというふうに見ておりました。ただ、「目次」「理科の学び方」が2ページ3ページの見開きに入っているんですけども、目次が見にくい。小さくて見にくいな。せつかく、理科の好きな子を教えて、ほんまに目次見ながら「こ

れやんねん」、「これが楽しいねん」で言っていた子どもを思い浮かべて、いや目次をもっと見やすくしてくれたら、大きくしてくれたらな。目次にめあても入ってたらなといろんなことを思いました。教科書の使い方。4ページ5ページにありましたが、これも理科の学び方を教える基本というか大事なところなのに、雑然としていてとても見にくい感じがしまして、ちょっとがっかりだなという感じがしました。3者を比べるとそんなところですよ。

新子教育長： はい。ありがとうございます。西村委員お願いいたします。

西村委員： 遅れまして申し訳ありませんでした。

全体的に理科の教科書は理論的に作られていて、見ていて今の子どもたちが楽しく勉強させてもらえてるんだなと思いました。科学的検証的なスキルが全体的に、6年生の教科書を中心に見させてもらっているんですけど、目的から仮説を立てて、実験、検証、結論出して考察して次につなげるという流れが非常に明確に出されていたので、皆さん大変優れている教科書だと思います。やっぱりそれが一番はっきりわかって明確なのは、啓林館だったかなと思います。先ほど山崎先生が仰ったように、大日本図書の場合、少し情報が雑然としていて明確に見にくい部分が隠れがちなのももったいないなというところと、東京書籍さんの大きいものはたくさん情報が入るんですけども、逆に白い部分がたくさんできすぎていて、目をどこに持って行ったらいいんだろうと。3、4年生あたりの理科の入り口だったらこの大きさがいいんでしょうけど、5、6年になってももう少し論理的なところを大きくすると、ここまで大きくなくていいのかなと思いました。全体的なバランスを考えると啓林館の教科書が私としては一番いい印象でした。

新子教育長： はい。ありがとうございます。ご意見を頂戴いたしまして、3者。東京書籍、大日本図書、啓林館の方があがりました。ご意見いただきますと、啓林館の方が今後の教育について、子どもたちの学びについて非常に流れ的にいいのではないかなと。特に見やすいような内容と、QRコードで視覚的な学習等々、ご意見いただいております。理科の方なんですけども、皆さんのご意見ちょうだいいたしまして、啓林館の方でまとめさせていただきますが、ご意見ございませんでしょうか。

委員全員： はい。

菰池主査： それでは、家庭科について説明いたします。

家庭科につきましては、開隆堂と東京書籍の2者でございます。

まず、「目標・内容の取扱い」についてですが、両者とも日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、実習を行うことを通してそれらに係る技能を身に

付けることができるよう、発達段階に応じた内容が取りあげられております。

次に「人権の取扱い」についてですが、東京書籍の6ページをご覧ください。「ユニバーサルデザインを意識しており、車いすに乗った人や高齢者等の写真・イラストを活用している」と意見が調査員よりあがっております。

また、開隆堂においては、111ページに記載の作品を持っている児童の写真が、「現代の多様な国際社会への対応を表現している」と調査員より報告があります。

東京書籍においては、13ページをご覧ください。「発達特性に対応できるように、本文と資料の区別がつきやすいよう、太い線で囲むなど配慮が見られる」との報告も調査員よりあがっています。

次に「内容の程度」についてです。東京書籍につきましては、情報量が多く、83ページ資料3のように、実寸写真など授業で説明しやすい工夫がみられるが、内容が多く、目移りしやすいという趣旨の報告が学校・部会よりあがっております。

次に「組織・配列」についてです。東京書籍につきましては、1、2ページをご覧ください。「5、6年生で関連する内容を同時期に学習できるような配列になっているので、家庭科室の効率的な利用が可能である」という意見が調査員、学校よりあがっています。開隆堂につきましては、8、9ページをご覧ください。「各学年の最初の教材が生活を振り返ることから始まっており、自分の生活を見直すことから学習できる」と調査員、学校よりあがっております。

次に「創意工夫」についてです。QRコードやDマークなど、両者ともインターネットに接続し、動画を視聴して技能を学べるようになっております。開隆堂につきましては、19ページをご覧ください。「子どもが親しみやすいイラストが使われており、大きくて分かりやすい」という調査員の意見がある一方で、「作業の振り返りを書くスペースが小さい」との意見が学校よりあがっております。さらに、巻末をご覧ください。「家庭科用語の英単語の一覧表が掲載されている点が特徴的である」と調査員より報告があがっております。東京書籍につきましても、巻末をご覧ください。作業の手元写真などが大きく、見やすい点が理解しやすくなっており、さらに、各単元においてプロに聞くコーナーがあり、キャリア教育に対応しているという趣旨の報告が調査員よりあがっております。

次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。開隆堂につきましては、50ページの左下をご覧ください。「やってみよう」などの補充問題がある点が特徴的であると学校、部会よりあがっております。また76ページにあるように、「レッツトライ」のページにおける生活の課題の実践例が具体的で進め方が分かりやすいという趣旨の報告が調査員よりあがっております。東京書籍につきましては、19ページの右下にあるように、「学習活動の終了後も、今後のくらしの視点で継続的に使えるような資料が多く掲載されている」との報告が学

校・調査員よりあがっております。また、61ページ「生活をかえるチャンス①～④は、具体的に発展学習に取組めるように示されている」との意見も調査員よりあがっております。

次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。開隆堂につきましては127ページにあるように、小学校と中学校での学習内容が領域別に載っていて、中学校での学習がイメージしやすくなっており、東京書籍につきましては、巻頭のページにて成長を振り返り、中学校までの学習が示されているという趣旨の報告が同じく調査員よりあがっております。

最後に、選定委員会の審議について報告します。防災の面では両者とも記載されているという意見がありました。

東京書籍につきましては、教科書サイズの大きさが気になるが、家庭科は、学校保管のところが多いので、良いのではないかとの意見がありました。また、60ページの「深めよう」、117ページの「話し合おう」では、絵が示してあり、分かりやすく、教師も使いやすいのではないかとの意見もありました。開隆堂の93ページは、ふりかえろう、ふかめようという単元があるが、文字が多いとの指摘がありました。また、東京書籍の18、19ページ、開隆堂の14、15ページを比べてみると、東京書籍の方が見やすいとの意見があがっております。

以上で家庭科についての説明を終わります。

山崎委員： 2者だけなので比較しながらお話ししたいと思います。

東京書籍は、先ほどもお話ありましたように、環境に、1年から4年までの関連する教科と、5、6年の家庭科、中学校までの流れというものがとても分かり易いですね。家庭科学習の見通しが持てると。子ども達に持たすことができる。最初にこのページみてね、いろんな導入ができるなと思います。授業にはいきますと、毎時間ごとに東京書籍は、めあて・活動・振り返りを学習するのかとても分かり易い。環境のページにも自己評価の場がありますので、これも使い易いなと言う気がします。それから、授業は、1番「みつめよう」2番「計画・実践」3番「活かそう・課題を見つけよう」こういう3つのステップで問題解決的な学習ができるように、展開をされているということ。これも良くできているなと思いました。それから、先ほどもありましたが、あっ、そうじゃなくてごめんなさい、生活をかえるチャンスと言うのが5箇所ほどありまして、生活を今より良いものに変えていこうとする意欲付けになるなという、そういう感じがしました。最後に東京書籍は、A4版の大判サイズで、とても丁寧に子どもに分かり易く書かれているなという感じがしました。で、そうすると今度は「持ち運びが大変だな」ということになるんですが、開隆堂のほうは、まず一番には、教科書が小さい分、東京書籍と比べて細いフォント、小さい文字というのがあるな。「ちょっと読みにくいな」という感じに思ってしまうと

ころがありました。これがやっぱりちょっと「しんどいな」という感じがしました。開隆堂のいいところは、やっぱり各題材に学習のめあてが書かれていて、流れとしては、「みつめる」「みつける」「気づく」それから「わかる」「できる」「活かす」「深める」という、学習の流れがやっぱりありました。いずれもですね、問題解決的な、勉強ができるなという気がします。それから、各学期の終わりに「チャレンジコーナー」というものがありまして、学んだ事を家庭での実践につなげたり、各国の例を示して「やってみよう」という意欲付けにしているという感じがしました。巻末のこれも先ほどもありましたが、英語で家庭科用語の一覧を載せていました。あの、各ページに英単語というのは、これは東京書籍にもありましたので、ここまで英語が覚えさせるようになってるんだなと思って、なかなかいいなと思いましたが、開隆堂は一覧を巻末に載せておりました。ということで、2者でありましたので、私は、例えば、包丁で切るというところ、あの、調理のところですね、2者比べてみたんですけど、左利きの指導は、東京書籍のほうは、そこに、教材の中に載っていますが、開隆堂のほうは、巻末に左利きのやつが載ってるんですね。できたら、もう一緒に載せたらいいのになど。わざわざ、巻末まで見なくてもいいのになどという感じがしました。こんな事も含めて、ちょっとサイズは大きいんですけども、丁寧に書かれている東京書籍の方がいいかなという感じが致しました。

新子教育長： はい、ありがとうございます。

田中委員： 私もこのサイズのこと、写真とか説明とかは分かり易いのはもう当然、あの、東京書籍なんですね。その大きい事で持ち運びとか、あるいは机の上、あるいは調理台に邪魔にならないかなという点もあったんですけども、先ほどちょっと説明ありましたように、家庭科は置いとくんですかね。持ち帰らないんですかね。まあ、そこはちょっとあの引っかけたんですけども、それをその懸念がないんだったら東京書籍のほうが好きかなと思います。まあ逆に、あの小さめで開隆堂の方は努力はされているんだと思いますけども。その分、書き込み欄も、記入欄も小さくなってるので、ちょっと使いにくいかなというふうなことがありますので、東京書籍かなというふうに思っております。

新子教育長： はい、ありがとうございます。

近藤委員： 東京書籍は、あの先ほども話しましたように、大きいので、使われているフォントが見易いなと思いました。それから、大きい分情報量も多いという事で、日本茶の種類であるとか、それから洗濯表示も、新、旧載っています。洗濯表示はまだ新しいのと古いのをこう見たいなというのがあって、これは助かるなと思いました。それから、巻末の「いつも確かめよう」の所あたりは、写真

が大きいのでよく分かるなというのと、それからミシンの扱いなんですけど、66ページなんですけど、「下糸を巻く」とか「下糸を入れる」とかいう手順が一つ一つ図で示されていて、とても分かり易いんですけど、で、後ろにも勿論大きいミシンの扱いも載っているんですけど、扱い、分かり易いなと思いました。それから開隆堂の方ですけど、本がコンパクトなので、やっぱり扱い易いなと思いました。ページ2の関連のQRコードがあるのが便利だなと思いました。やり方の動画とかが見られるようになっていました。特にお裁縫の関係の所なんかは、今はもうお家の方に聞いても分からない所があるので、細かくこの動画で「ここを縫って、ここを縫って、ひっくり返します」とかというのも見えるので、やっぱり、お家で宿題でやったりする時などに、とても助かるなと思いました。それから、裏表紙に包丁使いの写真があるのは、本を開けなくても見られるので便利だなと思いました。

以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。

西村委員： だいたい皆さんがおっしゃった事とちょっと重複するかもしれないんですけど、東京書籍は、サイズは大きいんですけども、家庭科の教科書は、手順がやっぱり大事だと思いますし、すごく丁寧にのっているんですけど、ミシンだったり、下準備の件だったり、とてもフォントも統一されていて見易くなっています。あの、不器用な子でも助かるんじゃないかなと思いますし、最後の、ぴらっと付いているところで、手洗いの手順が載っていたりとか、必ず全体的な注視で気をつけておくことが載っているんですけど、それは確認するうえで、いいのかなと思いました。で、持ち帰りしないということですけど、これ、お母さんたち見てもきっとすごくお勉強になるので、是非持ち帰ったらいいと思いました。開隆堂の方も同じようによく作られてると思うんですけど、東京書籍の方が、比べるとやはり見易いですし、フォントがいろんな種類のフォントが使われているのでちょっとガチャガチャしてしまうなという印象があります。少しそこが残念な点でした。

ということで、どちらを選ぶかということだと東京書籍の方が家庭科の教科書としては使ってみたいなというふうに思いました。

新子教育長： はい、ありがとうございます。開隆堂については、教科書サイドからいけば非常に扱い易いところはある、手順等についてもQRコードを使って動画で学べる等々、良い点、たくさんあったんですけども、ちょっとお話を聞かせていただいて、学校に置いておけるということ、他で言えばA4サイズ、非常に見易い。あるいは、手順がしっかりと示されている。そういったご意見等、多くございました。よって家庭科については、東京書籍のほうでよろしいかと。

菰池主査 : それでは、道徳について説明いたします。

道徳につきましては、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書、日本文教出版、光文書院、学研、廣済堂あかつきの8者でございます。

まず、「目標・内容の取扱い」についてでございます。東京書籍1年生の14ページをご覧ください。教材の冒頭には将来に向かう自信を意識つけた目標があり、考えるポイントが示されているという趣旨の意見が調査員よりあがっております。廣済堂あかつきの別冊の「道徳ノート」については賛否両方の意見が学校よりあがっております。

次に「人権の取扱い」についてでございます。各者ともに「様々な教材を通して人権尊重について認識を深めるとともに、人間としての在り方や生き方について考えを深められるよう配慮されております。例えば、日本文教出版6年生4ページをご覧ください。太字ゴシックの文字は背景色との濃淡がはっきりとしており、見やすいとの趣旨の意見が調査員からあがっております。

光村図書6年生23ページをご覧ください。調査員からも、人種・身体的特徴などについて多様性に意を用いており、2年生から6年生について、当該学年の配当漢字、すべてにルビをふるなど、児童の読みの負担を軽減している点があげられています。

次に「内容の程度」についてでございます。全者とも全学年でいじめについて取り扱われております。東京書籍6年生180ページをご覧ください。「スマートフォンのことなど、今日学校現場で課題となっている事柄をテーマとしてあげている」と学校よりあがっております。また、「『手品師』と『銀のしょく台』の定番教材が入っている」との報告が教科部会よりあがっております。

次に「組織・配列」についてです。

光文書院6年生p4、5をご覧ください。「『問いをもつ』『考える』『話し合う』『まとめる』などの学習の進め方が書かれているので見通しを持ちやすい」との報告が調査員よりあがっております。

続いて教育出版5年生目次をご覧ください。「1、2学期に自分のこと、人との繋がりに関わることを主に学び、3学期に集団生活に関わること、命や自然に関わることを学ぶ構成になっており、発達段階に配慮した配列になっている」と調査員より報告があがっております。

次に「創意工夫」についてです。学研5年生p10をご覧ください。「壮大な写真と短い詩の掲載や、アニメーションタッチの挿絵などを使用し、児童の興味を引きやすいものとしている」、「漫画で描かれている教材がいくつかあり理解しやすい」との報告が調査員よりあがっております。続いて学校図書1年生別冊p6をご覧ください。「ワークシートの冊子の中にも写真や絵が載っていて分かりやすい」との意見が学校からあがっております。続いて光村図書また、6年生42ページから55ページをご覧ください。「3年生から教材とコラム

を組み合わせた『ユニット』を年間に5種類設けている」と調査員よりあがっております。続いて廣濟堂あかつき6年生別冊ノートの裏表紙をご覧ください。「勉強したことを自己評価できる場所があり、表情で選べるようになっていて分かりやすい。また、児童が教材を思い出すきっかけになることや、心の記録として過去の記述を読み返すことができ、教師の評価につなげやすい」と調査員の報告にあがっております。

次に「補足的な学習・発展的な学習」についてです。光村図書6年生31ページをご覧ください。「1時間の学びが他教科や日常生活などにつながるよう『つなげよう』が設けられていると調査員からあがっております。続いて、東京書籍6年生75ページをご覧ください。「『問いを見つけて考える』が設定され、それに対応する教材が3年生以上に掲載されている」と同じく調査員から報告があります。

最後に「幼小中一貫教育の観点」についてです。まず東京書籍1年生6ページをご覧ください。「はじめに学校生活で行うことの例を写真で紹介している。新しいことに対するワクワク感を与えると共に、幼稚園と同じところもあるという安心感を与えることができる」と調査員より意見があがっております。

続いて、日本文教出版6年生184ページをご覧ください。「6年生の最後のコラムに詩を掲載し、小学校で学んだことを振り返り、中学校生活への思いを膨らませることができる」と、同じく調査員よりあがっております。

最後に、選定委員会の審議について報告します。

東京書籍は現在使用しており、肯定的な意見が学校よりあがっているが、5年14ページの「いつも全力で」の単元で用語のむずかしさがあったので、1時間で理解できる分かりやすさがよいとの意見もあがっておりました。光村図書は1時間で理解できる良い読み物がそろっているとの意見があがっておりました。廣濟堂あかつき、日本文教出版、学校図書の別冊については、小学校は、別冊がなくてもふり返りをしているところが多く、別冊の有無での判断は必要ないとの意見があがっておりました。

以上で道徳についての説明を終わります。

山崎委員： 長くなってもいいですかね。東京書籍からいきます。

先程もありましたが、目次の中にいじめの教材とか情報モラルとか、それが色分けされて明示をされています。それから、次のページにこれから1年間で学ぶこととして、内容項目ごとに4つの視点で分けて示しています。道徳は学校だけでなく、家庭のご協力も大切なので、保護者の方にも大変理解されやすい中身になっていると思います。去年、一昨年とね、小中道徳をやってきましたので、その折に何回か議論はしましたが、まあ同じようなことになるかもしれません。

2つめ、その次のページに道徳の学習を進めるためとして2ページにわたって道徳の時間の学び方という考える、話し合う、ふりかえる、見つめる、理解

する、話し合いの約束があつて、大変先生にとっても指導しやすい中身になっていると思います。それから、教材の最初に、それぞれの教材の最初に4つの視点がマークで示されていること、それから1、2年は「はじめに」で発問1つ、3年から6年は最後に考えよう1、2で発問2つ、こどもたちに考えさせるようにしています。分冊がなくとてもシンプルで、先生方の力が試される教科書だと思いますし、ワークシートなどをね、きちっと作って、授業研究をしっかりとやっていただいて、ワークシートもきちっと計画的に作って、評価までできるような形をつくってやっていくことが大事だろうと思います。

それから、評価につきましては、巻末の学習のまとめがありますので、これは各月ごとにありますので、切り取ることもできて、評価に使えると思います。それから、いじめ教材。去年も一昨年この道徳が教科化された中身は、田中先生も仰っていましたが、いじめの問題が大きな問題でありまして、東京書籍の場合には各学年いじめは2本ずつありますし、情報モラルも各学年1本ずつありますし、スマホやオンラインゲームなんかについても出ておりますし、まあ適切な中身になっているだろうなということがあります。サイズはね、東京書籍はいつも大きめなので、これも大きいなという感じはするんですけども、まあ中身としては丁寧にできているなという気がします。

2点目光村ですが、巻頭に詩があつて、格調高いなど、さすが国語の教科書会社だなという感じがします。教材のはじめに興味・関心を持たせるような発問がついています。ただ、教材の終わりには「考えよう」「話し合おう」「つなげよう」ということで、3、4の問いがあつて、子どもたちに考えさせるようにしています。巻末に先生方へ、この教科書がめざした何年生の姿として教材を4つの内容項目別に分けて示して、他教科や領域との関連も入れて、示していますので、先生方はこれをみながらやれば一覧が出ますので、大変わかりやすい中身になっているのかなと思います。保護者にも分かりやすい中身だと思います。いじめの問題は大変多くて、各学年4本から6本ありました。コラムもありました。情報モラルも各学年1教材ずつありました。ちょっと読んでみたのは4年生の「つまらなかつた」という教材と、5年生の「あいさつ」という教材なんですけど、情報モラルを扱っているんですけども、ちょっと読んで違和感があるというか、もうちょっとこうぴったりくるような教材を選ばなかつたかなという気がしました。

3点目、日文ですけども、日文の特徴は分冊道徳ノートがついているということです。そしてこの道徳ノートは考えてみようとか、見つめよう、生かそうという教材の中に発問入っていますが、この発問に対する答えをその分冊道徳ノートに書くようになっていきます。授業と分冊がぴったし合っているという感じの分冊です。で、これも去年、一昨年も話題になったんですけども、小学校は担任の先生が教える、中学校も担任の先生が教えるんですけども、小学校はほとんどの教科を担当が持っていますので、一人ひとりのAくん、Bくんについて、Aさん、Bさんについて、良く知っているということもありますので、私は小学校では、

分冊はいらないなど。それぞれの子どもの特徴とかねそういうものは担任の先生はよくお掴みになっているだろうと思いますので、ワークシートをきちんと作ってやっていただければ、わざわざ分冊の重たいのを使う必要はないだろうと思っています。中学校は逆に分冊が必要かなと思ったりするんですけども、小学校ではちょっといいかなという気がします。日文のいいところは、目次の次に道德の扉があって、道德で何を学ぶかということが示されていて、考える手順がよくわかるなと思いました。それから、いじめ対策というのはこれは日文の特徴でして、大変多いんですね。各学年7、8本ありまして、8者ありますが一番いじめについて取り上げていて、やっぱり傍観者にならないとか、そんなことも含めてですね、きちっと教える中身が取り入れられて、日文はいじめについてはしっかりしているなという感じが致しました。巻末に学習内容一覧として教材を4つの内容項目別に分けて示して、テーマや他教科との関連も入っています。これも先程の光村と同じように巻末の一覧は大変先生方にも保護者にも分かりやすい中身だと思いました。ちょっとこれはどうかかなと思ったところは、1年生で「ゆうたのへんしん」というところが載っているんですけど、漫画みたいに載ってるんですけど、みんなこんな文化的、こんないい生活をしているかなど。いろんな子どもたちがいる中で、どうだろうなという気が致しました。それから「ぞうさんとおともだち」というのは子どもたちによく読み聞かせをするんですけど、これは読み聞かせの方がいいなと。こんなに簡単にあっさりしてしまうと、逆に分かりにくいなと思いました。これはもう絵本でぜひとも先生方に子どもたちに読んでやっていただきたいなと思いました。

廣濟堂あかつきですが、これも分冊があります。日文の分冊と違っているのは、各教材ごとに分冊の道德ノートがあるのではなくて、1教材2教材3教材まとめて自分をみつめて書くようになっていきますので、ちょっと教科書で教えたことと、それから分冊で書くことと別の事なので、もう一回時間をかけてやらないとあかんなと思って、これは小学校にはこの分冊は同じ分冊でもしんどいのに、これはちょっとしんどいなと思いました。巻頭に詩を載せ、2年以上は次の道德の時間はこんな時間として学習のしかたを載せていますので、大変わかりやすい。巻末にも一覧、教材一覧が載ってますので、これも先生にも保護者にもわかりやすかったです。廣濟堂あかつきはいじめ対策教材としての明示がありませんでした。一覧表とか作ってですね、載せるとかすればですね、子どもにも親にも先生にもいじめ対策教材というのが分かるんですけども、ちょっと何とか載せてくれたらいいのになと思って見ておりました。

学校図書ですが、これも分冊学びというのがあります。この分冊も廣濟堂あかつきと同じように、1つの教材で分冊1ページ分ではなくて、1教材2教材をまとめて分冊にしています。まあ分冊にすればね、評価にはしっかり使えるんですけども、これもまあ小学校ではこのやり方は厳しいなと思いました。いじめ対応教材は大変多くて、各学年4本から7本で、これも日文に次いで多い数でした。

それから、この学校図書の特徴は、教科書の教材の後ろに発問がついておりませんので、こどもたちは教科書を見て問題を考えるのではなくて、先生からの発問がないとわからないようになってますので、先生方にしっかり頑張ってもらわなあかんという感じがしました。

学研ですが、1つめは本文があって、それから最後に「考えよう」で発問が2つ、大変シンプルなつくりになっていました。先生方頑張って教材研究してやらなあかんなど、そういう教科書だと思いました。2つめは、教科書のサイズが大きいんですけども、文字のフォントも大きいのに、私がこうさっと読んだ限りはフォントの形が難しかったのかな、とても読みにくいところがあるなどという感じがしました。巻末の各教材と主題名という一覧は、きちんと書かれているんですけども、いじめ対策として出てないので、これもいじめという言葉を入れてほしいなと思いました。

それから教育出版ですが、目次、道徳の学習がはじまるよ、道徳ではこんな学習をするよ、というのが最初にありまして、道徳に向かう心構えを育てたり、学習の心を理解させるようになってきているなと思いました。1、2年の教科書の最後に礼儀とかマナーというページがありまして、こういうのを付けてるのは他にはなかったので、ちょっと特徴的だなと思って見ておりました。いじめ問題も各学年4～6本と充実しておりましたし、情報モラルも1本～4本ありまして、特に高学年ではたくさんありましたので、これもよくできているなと思いました。各教材の最後に考えよう、深めよう、やってみようで発問が4個～6個出ていたんですね。非常に多いので、こんなたくさんいるのかな、先生方はこのうちどれを選ぶかというのはあるかな、選びやすいかなと思ったりするんですけど、先生も自分でやっぱり自分のクラスの子どもの実態に合わせてやっぱり発問を考えてほしいので、たくさんの中から選ぶんじゃなくて、先生に考えてほしいなという気がしました。こんなにたくさんはいらないだろうという気がしました。

光文ですけども、主題の前にテーマと発問を載せて、教材を読む前からしっかり問題意識を持てるようにしておりました。教材の最後には考えたり、まとめたり、話し合ったりする発問が二つあって、この教材もとても先生方は教えやすい中身だなと思いました。巻末に内容項目別の一覧があります。いじめというふうにきちんと記載されておりますので、児童や保護者、先生方にもわかりやすかったかなと思いました。情報モラルも書かれておりました。今1年生からスマホは原因問題が出てきておりました。それから巻末に学びの足跡として、織り込みページで授業記録を記入するようになっていて、評価に使いやすいなと思いました。教材数、付録も入れて大変も多いと。選択は先生方が35時間ですので、選択はできますが、こんなにたくさんは教材いるかなという気がしました。

以上です。

新子教育長： はい。ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

田中委員 : 今、山崎委員が細かく言われたので、ポイントだけしぼらせていただきたいと思います。現在使われている東京書籍なんですけど、今回学習指導要領改訂で道徳自体はだいぶ変わったんですか。変わってないですよ。もともと移行措置で触れていた部分なので、先ほどの現在使われている学校の状況を見てても問題がないとか教えやすいという言葉が、そしたらこれを続けたらいいんじゃないかという思いがまず一点と、それと大事な情報は情報モラルといじめ。それは他のところでもそうなんですけども、まあスマホについてもしっかり書けてるところが良かったかなと思います。全体に道徳らしい写真とか、イラストになっているので、こどもたちにとっても、小学生にとっても取り組みやすいのかなと思います。

光村の方も同じような形でわかりやすくなっているんですけども、もともと国語の教科書が強い会社ということもあって、国語的な感じがするところが若干気になるかなというふうに思います。

その他のところで、別冊とか道徳ノートとなっているのは、山崎先生が言われたように、今の本市の状況ではあまり必要ないんじゃないかという思いを持っています。

以上です。

新子教育長 : はい。ありがとうございます。

近藤委員 : 山崎委員のおっしゃったこととかなり重複するんですが、お話しいたします。東京書籍については問い合わせがシンプルで広くいろいろな意見が出そうだと思います。学期毎の学習のまとめのページは、提出できるようになっているので、最後の巻末についてるやつですよ。先生も子どもたちの心に響いた部分の分かりやすくなってよいなと思いました。先程から話もあがっているように、教科になって使い始めている教科書なので、先生も教えやすいんじゃないかなと思います。

光村図書についてです。教科書が小さめで、重くないのありがたいなと思います。いじめ問題のページなんですけど、たいしたことではないんですが、必ずいじめ問題のページには「いじめをゆるさないところ」と書かれています。そこがとてもいいなと思いました。目次も1学期のクラスづくりより、学校生活にあわせた年間構成がわかりやすいようになっているのがいいなと思いました。

日本文教出版についてです。先程からもあがっているように、いじめ防止の教材が多く、重点が置かれているなというふうに感じます。最初のところにあらずじや登場人物の紹介がありまして、理解するのがゆっくりな子どもにもわかりやすいなと思いました。ノートはシンプルで使いやすいそうなんですけど、2冊でどうしても重くなってしまうのが気になる点です。

以上、良いなと思った3者についてお話ししました。

新子教育長： はい。ありがとうございました。

西村委員： 私もかぶらないようにと思うのですが、まず東京書籍の方ですけど、現在使われているということですし、話が割とシンプルで話の量も種類が多いので、選びやすいというか、先生方がどれをやるか迷う点でもあるかもしれませんが、色々バリエーションがつけやすくて、わかりやすい短い話がたくさん載っている方が道徳としては1つをすごく読み込まないといけないので、子どもの負担も少ないかなと思いました。

光村図書は、やわらかい感じで、表紙もすごく「いまどき」という感じがしますし、子どもにはとっつきやすいような感じがすごくあって、紙が真っ白けではないのすごく読みやすいなと思いました。字が小さくても割と目に入りやすいところがあって、下がピカピカ光ってないので、落ち着いて読めるなという印象がとても1番ありました。

新子教育長： ありがとうございました。現在使用しているのは東京書籍であります。まあ学校現場等からも非常に使いやすいというのは出ております。それと、光村、まあ読みやすいというか、先のみなさんにも言っていたように、目に優しいというか。あと日本文教出版の3つかなと。ただ、分冊というんですか。小学校にはあまり必要ないのではというご意見もありましたので、この3つにはしぼられるかなと思うんですが。流れ的というか、学校現場ではほとんど東京書籍にしてから問題は出ておりませんので、研究授業等も見させてもらいました。その後聞いても使いやすい。さっき仰っていただいたように、シンプルであって、たくさん出ておりますので、バリエーションというんですか、その時々にあって使いやすいと聞いておりますので、東京書籍を引き続きということによろしいでしょうか。それでは、東京書籍に決定します。

北野指導主事： それでは、書写について説明いたします。

書写につきましては、全部で5者でございます。

まず、「目標・内容の取扱い」についてです。東京書籍6年見開き、及び10ページをご覧ください。「文字を正しく整えて書くために必要な知識・技能を『書写のかぎ』と名付けて『何を学ぶか』が明確になっている」と調査員から意見があがっております。

次に「人権の取扱い」についてです。教育出版4年生巻頭をご覧ください。世界の文字文化に興味をもち、深められるとの趣旨の意見が学校からあがっております。

次に「内容の程度」についてです。各者とも、「手紙や原稿用紙の書き方など、

日常生活や学習活動に役立つ活動が取り上げられている」と大阪府の選定資料に書かれております。

次に「組織配列」についてです。教育出版2年生14ページをご覧ください。「めあて、文字を書く原理・原則の理解、応用を図る、振り返るといった流れで構成されている」と調査員から意見があがっております。同じく東京書籍6年16ページと教育出版4年27ページをご覧ください。「他教科と連携した内容が具体的に取り上げられている」と教科部会から意見があがっております。

次に「創意工夫」についてです。光村図書1年生10ページをご覧ください。「低学年を中心になぞり書きやそら書きなど体感を通して理解を深める教材が積極的に取り入れられている」と調査員から意見があがっております。

同じく東京書籍1年生16ページをご覧ください。手順が丁寧に「むすび」など児童が苦手なところに細かい配慮があるとの趣旨の意見が教科部会からあがっております。

次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。東京書籍の6年生27ページ、38ページをご覧ください。「我が国の伝統や文化の中で育まれてきた文字文化を、文字そのものと文字を書くことの二つの側面から取り上げた単元がある」と調査員から意見があがっております。

学校図書1年生2ページをご覧ください。また光村図書1年生4ページをご覧ください。「児童の学びが広がり、深まるように動画や学習ツールなどを活用できるQRコードが随所に掲載されている」と調査員から意見があがっております。

教育出版2年生36ページをご覧ください。「『はってん』コラムで当該学年より上の指導事項を示すことで、これから学習する内容の見通しをもち、接続が図れるようになっている」と調査員から意見があがっております。

次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。日本文教出版1年生6ページをご覧ください。「幼小連携に資するものとして線遊びを取り入れ、文字の基礎・基本となる書写活動につながるように配慮されている」と調査員から意見があがっております。

最後に選定委員会の審議について報告します。

まず、机上に広げながら学習することを考えると、B版が多くてよいという趣旨の意見がありました。

次に、毛筆の教材で、見開きの使い方として、東京書籍、日本文教出版、光村図書の3者は、見開き左ページに手本、右ページに学習の流れにそってポイントが配置されている、それに対して学校図書、教育出版の2者は、見開き右ページに手本、左ページにポイントが配置されている。右ページに手本がある方が、使いやすい。説明が先か、後かという授業作りに関わっているという趣旨の意見がありました。

次に、光村図書は、書く力が付けられるようになっている。また東京書籍は、

構成が整えられ、ふり返りの項目があるといった趣旨の意見がありました。

次に、光村図書と東京書籍は文字の学習を楽しんで行うことができ、「ぐー・ぴた・びん」の姿勢の指導は、6年生まで通して指導でき、支援の視点でいくと、分かりやすいという趣旨の意見がありました。

最後に光村図書は、国語の時間に生かすことができるという趣旨の意見がありました。

以上で、書写の説明を終わります。

新子教育長： ご意見がありましたら、お願いします。

山崎委員： 東京書籍からいきます。例によって東京書籍だけは、ワイド版でいいなという感じで、今お話しありましたように、巻頭の「集めて使おう書写のかぎ」というのは、目次も入って、折り込み3ページで、今1年生で見開き1ページだったんですけども、1年間で何を学習するか 今どこの何を学習しているかというのが、よくわかるということで、子どもたちにとっても、いい中身だなと思いました。

2つ目は、文字を書く姿勢をペタ・ピン・ポンという擬音といますか、こういう言葉で、書き始めはポン、書き終わりはピタとかスーとかあるいは、トンというような言葉も使っていて、大変わかりやすい。これは、各者ともちょっと言葉は違いますが、各者にありました。それぞれに工夫しながら、一年生の一番最初にはわかりやすいこういう言葉で、子どもたちに指導していくというのがよく理解できました。

東京書籍に続けます。毎時間、最後にふりかえって話そうというのがありまして、自分で評価し確認し、お友達と話し合うようになっています。それからこれも前に私がお話し申し上げたんですが、学級会であるとか委員会活動であるとか、児童会活動、中学校で言えば、生徒会活動、こういう子どもたちの自主的な特活というか、自主的な活動をぜひとも活性化してほしいと、子どもたちによくよく考えさせて、学校生活をよくするために、子どもたちに活動させてほしいと思っているんですけども、例えば、東京書籍ですと、6年生 生活に広げようということで、6年生インタビュー、ポスター作り、5年生ではリーフレット作り、4年生では、学級新聞づくり、というのが入っておりました。ぜひとも、こういうのを使って、子どもたちに活動させてやってほしいなと思いました。東京書籍は、よくできているなあとと思っています。

ただ、ぼくは、委員の皆さんはどう思うかわかりませんが、東京書籍の35ページの毛筆で、「新たな世界」というのがあるんですけども、ちょっと見ていただくと、私はちょっと違和感があるというか、この字は、ちょっと、あれ、「新たな世界」ってこんな字だったかな。こんな字でいいんですけども、ちょっとお手本にしては、東京書籍さんにしては、何か違うんじゃないかな、という気がし

て、違和感があったんですが、他の委員さんはどうか分かりませんが。

光村さんいきます。光村さんも1年の一番最初はやっぱり、擬音を使って子どもたちに教えている。1年生「できたかな」2年生から6年生は、「ふりかえろう」というコーナーを作って、毎時間、授業の最後に自分で評価・確認ができるようになっていました。それから、東京書籍でも言いましたが、ポスター作りとか、インタビューのメモとか新聞、リーフレットこういうものの書き方も出ておりましたので、大変いいなと思って見ておりました。

私が選ぶとしたら、難しいところなんですけど、国語の教科書が決まってないんですが、現在光村を使っています。例えば、6年生でやまなし、宮沢賢治のお話が出てくるんですが、これ書写にも載っているんですね。

もし国語の教科書が光村なら、書写も光村にしたら合うかなという気がします。そういう意味では、国語がどうなるかわかりませんが。光村さんがいいのかなという気がしました。

学校図書さんいきます。学校図書さんは、やっぱり1年の最初には、擬音で子どもたちにわかりやすく表現がよい。授業の流れは、確かめて書こう、考えて書こう、活かして書こう、ふりかえろう、というような、学習の流れがあります。考えながら書かせるという視点で作っておられました。絵に吹き出しがたくさんあって、注意するところなどがよくわかるようになっております。それから、6年生には、ポスター、お知らせ、5年生には、プレゼンなど、4年生には、プログラム、学級新聞づくり、こういうのが出ておりましたので、自主活動にいいなと思って見ておりました。これはどうでもいいことなんですけど、表紙にちょっと違和感があるなあと。この絵はなんだろう、これは、と思いながら見ていたんですけども、どうかなと思っておりました。

教育出版ですが、1年生の一番最初はやっぱり、姿勢から始まって、鉛筆持ち方こういうところもみんな、びゅう、ペタ、ぐう、というような、パチパチ、コロコロ、とんとかというような言葉が使われていて、大変わかりやすいなと思いました。教材の始めに、授業の教材の始めには、めあてがありまして、終わりにふりかえろうというのがあります。まあこういうことで、子どもたちにとっても分かりやすい授業になっているなと思いました。4、5、6年には、やっぱり、同じようにリーフレット ポスター 掲示物、あるいは、学級新聞作りなども出ていましたので、教出さんもこういう活動に力を入れてくださっていると思いました。

日文へ行きまして、やっぱり1年の一番最初は、ピタとかピンとかぐうとかこういう言葉をつかって、姿勢、あるいは、文字のとめはらいなどをやっておりました。毎時間授業が、めあてを知る、考える、確かめる、活かす、こういう流れで、学習するようになっていて、最後ふりかえるがついておりました、それぞれの授業を評価するようになっていきます。4、5、6年には、やっぱり学級新聞やポスター作りも出ておりますので、きちんとできていると思います。

以上のようなことで、結論から言いますと、東京書籍さんかな、光村さんかなと、みていたんですが、今、現在、光村さんを国語で使っているとしたら、光村さんもいいのかなあというのが、私の意見です。以上です。

新子教育長： ありがとうございます。

田中委員： 重複する部分は割愛させていただいて、筆使いのわかりやすさでいうと東京書籍さんかなというふうに、大きさにもよるんですけども、少し、他の出版社とは違うんで、わかりやすい表現を使っているなと思いました。

教育出版の部分でも、ふりかえりのところはうまく、新しい項目になっている。それから光村さんも丁寧にされてて、幼小中一貫では、今の教科書もありますので、いいかなと。私はその3者かなと今は、思っております。

新子教育長： ありがとうございます。

近藤委員： 東京書籍は、1年生では、左手の鉛筆の持ち方の図が、載っていたりして、全体的にユニバーサルデザインのやさしさが感じられます。

教育出版では、他の教科や活動に活かせる内容が各学年にありました。

光村図書の3年生の最初の方の筆使い、22ページ、各者いろいろ説明に工夫があったんですが、比べてみると、光村図書のこの図がとても分かりやすくいいなと思いました。それから書写の道具の作り方のページが、2年生だったらえんぴつ、3年生は筆、4年生には、すずりや紙などで、子どもが興味をもちそうだと思いました。以上です。

新子教育長： ありがとうございます。

西村委員： 東京書籍さんが、一回り大きくなっているのが、お手本の横に、特に毛筆の時ですけれども、見出しがついているので、この分が大きくなっているのかと。そうするとお手本の横にこの見出しがあるので、ちょっと見づらいかなと。ここはお手本だけで解説は、こっちで分けたほうが子どもは、見やすいのかなと。めあてという点では、ここに書いてあるので、これに気を付けたらいいんだと、わかるだろうということで載せておられるかなと思います。ちょっと気にはなりました。その点では、一つのページにどんと光村図書さんに載っているものの方が分かりやすく、見やすい。このサイズでも十分見やすいなという印象がありました。字も非常に、優しい字体で、優しい印象の字が多くて、見やすく、良いなと印象を受けました。光村さんは、とても書写としていいんじゃないかなと思いました。

新子教育長： ありがとうございます。

東京書籍から日本文教出版まで5者。

1年生姿勢から始まって、それぞれ工夫されており、内容については、ふりかえりまで、あるいは学年ごとに共通する部分と同じようなところがみられるんですけども、委員さんそれぞれのご意見をお聞かせいただきましたら、東京書籍、光村かなというふうに私のほうでは、感じているのですが、筆使いであったり、毛筆等でわかりやすいというのは、光村が非常に多かったように思うんですけど、山崎委員のおっしゃられた通り、国語とのからみもございまして、このところは皆さんの挙手でまた。

### 【挙手の結果】東京書籍1 光村3

北野指導主事： それでは音楽について説明いたします。

音楽につきましては、教育芸術社と教育出版の2者でございます。

まず、「目標・内容の取扱い」についてです。教育出版3年生43ページをご覧ください。「学び合う音楽のコーナーで、児童が主体的・協働的に学ぶためのヒントが示されている」という意見がございます。

次に、「人権の取扱い」についてです。教育芸術社3年生21ページをご覧ください。リコーダーの掃除方法を載せており、楽器を大切にすることを育てることができるとの趣旨の意見が調査員及び学校からあがっております。

次に、「内容の程度」についてです。教育芸術社3年生18ページをご覧ください。「リコーダーの写真に穴番号を表示してあるので、指使いを覚えやすい」と調査員及び学校からあがっております。

同じく教育出版は、3年生9ページをご覧ください。「新しく習った記号などが右端にあり、復習に役立つ」と学校からあがっております。

次に「組織、配列」についてです。教育芸術社は、2年生巻頭の見開きをご覧ください。1年間の見通しをもてるよう学習内容が示されており、2年生80ページをご覧ください。ふり返りのページは、写真や音符を使って、視覚的に分かりやすくなっております。また学習したページが記載されており、児童自身で調べられるようになっていくといった趣旨の意見が調査員からあがっております。

次に「創意工夫」についてです。教育芸術社5年生46ページをご覧ください。「詩と音楽の関わりを作詞者・作曲者・演奏者の視点から考える学習になっており主体的な活動につながる」と調査員からあがっております。

教育出版3年生8ページをご覧ください。同様の透明シートがどの学年にもあり、工夫されているといった趣旨の意見が学校からあがっております。

次に「補充的な学習・発展的な学習」についてです。教育芸術社は、5年生、6年生の巻頭をご覧ください。フィギュアスケートと歌舞伎について載せており、

「音楽について幅広く深く考える学習につながる」と調査員及び教科部会から意見があがっております。

次に「幼小中一貫教育の観点」についてです。教育芸術社の6年82ページをご覧ください。就学前との関連だけではなく、中学校に繋がる振り返りとなっているという趣旨の意見が学校からあがっております。

最後に選定委員会の審議について報告します。

まず、教育出版について発表会が教科書一冊で行える。また耳から入る親しみやすい曲が多く取り上げられているという趣旨の意見がありました。また透明シートは工夫されているが、怪我しないか心配であるという意見がありました。

教育芸術社について、演奏する際、楽譜が読みやすいとの意見がありました。また和太鼓やお琴といった和楽器の扱いがあるとの意見がありました。

以上で、音楽の説明を終わります。

新子教育長： 2者でございます。いかがでしょうか。

山崎委員： 僕は、音楽あんまりくわしくないので、音楽の中味についてはちょっとお話しできないかなと。

教育芸術社。先ほどもありましたように、何年生の学習ということで、巻頭に1年間でこんな学習をするよというページが、これはやっぱり、学びの見通しが持てるなと思いましたが、最後の振り返りで1年間ふり返って、ページ数も記載されているので、何ページでこれ勉強したかなとこういうことを思い出したり、調べたりすることができたり、いいなと思えました。

もう一つは、1年生から歌う、楽器を演奏する、体を動かして、鑑賞する、音や音楽を作るなど、音楽で豊かな感性が養われるなと思って見ておりました。教材の最初にめあてが大きく書かれていて、子どもたちも学習に取り組みやすいなということ。それから教科書の中に、自分たち、子どもが記述する欄があって、書く活動もできるということ。リコーダーの習得というのは、なかなか差がつくと思うんだけど、3年生以上には、リコーダーの運指表がついている。これは、教出にもありましたけども、練習しやすいなと思って見ておりました。

教育出版社。教材の最初にめあてが大きく書かれているということ。各教材のメモの欄があって、短くメモができる工夫がされているということ。各学年に学びナビというのをいくつも入れておまして、主体的に、あるいは、友だち同士、協働して学ぶためのヒントが書かれている。そして考えたり、歌ったり、演奏したりできるようになっている。こういう工夫がされているなと思えました。

教育芸術社さんと一緒に、リコーダーの指使いが、後ろの方についておりました。ということで、中身は詳しくないんですが、子どもたちにとって、より音楽らしく、教科書を見れるなということで、教育芸術社かなと思って見ておりました。

以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございました。

田中委員： 教育芸術社。音楽は、あんまりわからないんですけども、教育芸術社のほうは、写真とか字も大きく、楽譜も大きいので、使いやすいのではないかなと、扱いやすい。楽器の説明もわかりやすいなということで。興味をもちやすいんじゃないかなと。教育出版とあまり変わりはないんですが、若干、字も小さ目のところが使いにくいんじゃないかなというふうな感じがしました。戻りまして、教育芸術社は、伝統芸術の方も入っていますので、こちらの方が、私としていいかなと。

新子教育長： はい、ありがとうございました。

近藤委員： 教育出版者。リコーダーを習う3年生以上の学年で、最終の見開きページにリコーダーの指使いがついているんですが、閉めても他のページを開けて見られるようになっているので、それはリコーダーの指使いが覚えられない子には便利だなと思いました。

それから、5年生の半透明シートの使い方は、オーケストラの位置の写真だけでは分かりづらいんですけど、オーケストラの位置がわかるようになっている使い方をしてあるのが、とても工夫があって、興味を引いて、いいんじゃないかな、よくわかるなと思いました。

それから、音楽鑑賞の魔笛、4年生の58ページなんですけど、魔笛のページはこういう感じで、魔笛の歌劇の世界観がうまく伝わってくるような写真で、これがとてもいいなと思いました。

教育芸術社のほうについてなんですけど、1年生の鍵盤ハーモニカのページが教育出版と比べるとちょっと分かりやすいかなと思って、自習もしやすいんじゃないかなというふうに見ました。

教育芸術社のほうは、リズムに関するページですね、リズムに関するページが全学年にまたがって、同じ拍子の拍のマークがあって、分かりづらい音符の長さが、1年生の時から拍のマークがついているので、同じマークでとてもリズムとか音符の長さが分かりやすいなと思いました。

音楽鑑賞のページでは、これもだいたい全学年にわたってあるんですが、旋律の特徴をあらわした図、どんな楽器でどんな風に聞こえるよっていう、旋律の特徴をあらわした図がとても分かりやすくて、3年生以上では、最後の方に習ってない分も含めて、楽典が載っているのが、見やすくて、ときどき見返したりして、よく使うんじゃないかと思いました。

以上です。

西村委員： 教育芸術社のほうは、他の先生方がおっしゃった、日本の伝統に関する内容が非常に充実していて、普段触れる機会がない分、学校で勉強する機会があるのはとてもいいことだと思います。

めあても分かりやすく書いていますし、音をどう感じるかと言うのを、いろんな感じ方をしている子がいると思うので、視覚ではいたり、文章で読んだり、いろんなアプローチをしているのが、非常に、子どもにとっては、1個じゃなくていろんなやり方があるというのが、1ページの中にたくさん情報があるのが、いいかなと思いました。

選曲も子どもに親しみやすい選曲が多いように思いますし、楽譜自体も、黒丸、音符のところが非常にはっきりとしていて、見やすいと思いました。

教育出版と比べると、どうしても音符が小さくなってしまっているので、少し見にくいなという印象はありました。

教育出版のほうは、英語の歌が入っていたり、いろいろ工夫もされていると思いますし、こちらのほうも選曲も工夫はされているんですけども、ちょっとバラエティに富みすぎていて、子どもに親しみがあるかということ、ちょっと、より音楽を好きな子にはこちらでいいんじゃないかと思いますが、音楽が苦手だなという子も含めて、興味を示しやすいのは教育芸術社のほうかなというふうに思いました。

新子教育長： はい、ありがとうございます。

2者ともそんなに書かれておる内容等についても、伝統芸術が特に教育芸術社、で、あと、めあてと、あるいは、書くっていうんですかね、書く欄っていうんですか、メモするような欄が、市のほうも書くことについては、どの教科にもいろんなことに進めておられますので、そういったところから判断させてもらおうと、なかなかどちらかと言うのは、むずかしいんですけども。

教育芸術社ということで私のほうは思うんですけど、みなさんのご意見がございましたらお願いしたいんですけどいかがでしょうか。

ありがとうございます。それでは、教育芸術社で。

甲村指導主事： それでは社会科について説明いたします。

社会は東京書籍、教育出版、日文の3者が発行しており、調査対象は3種類でございます。

まず、「目標。内容の取扱い」についてですが、各者とも社会科の目標達成のための適切な内容になっております。特徴的なものとして、東京書籍「新しい社会5上」の31ページをご覧ください。選定資料には、「まとめる」のページにおいて、「気づいたことや疑問に思ったことを話し合っただけで学習問題をつくり、それらをいろいろな方法で調べまとめることを通して、児童が社会生活について理

解し、情報を調べまとめる技能を身に付けられる内容が取りあげられている」と書かれております。

また、日本文教出版については、「かまぼこができるまでのページは、順番に写真があり、本市の児童にとっては、身近で興味をひく内容だと思われる」との意見が学校からあがってきております。

次に「人権の取扱い」ですが、各者とも生命尊重、平和、環境、共生について適切に取り扱われています。特徴的なものとしては、日本文教出版「小学社会6年」196ページに見られるように、「女性や子どもに視点を当てた記述がきちんと書いてある」という報告が調査員からあがってきております。

次に「内容の程度」ですが、各者ともわかりやすい文章表現で記述されており、児童の発達段階に応じた内容になっております。選定資料にも、各者とも、「写真、挿絵、図、表などの資料について、児童の発達段階を考慮した内容となっている」と書かれております。

教育出版では、「選択項目があり、『わたしたちの柏原市』との併用がしやすかったり、より発展的に学習を深めることができる」との報告が調査員よりあがっております。

また、日本文教出版「小学社会4年」95ページ右の『稲むらの火』については、他教科とも関連しているのでよい」との意見が学校からあがってきております。

次に「組織、配列」ですが、それぞれが学習指導を効果的に進められるよう適切な配慮がされ、各者とも問題解決的な学習の構成になっています。

東京書籍については、選定資料及び教科部会から、「前学年で学習した内容、当該学年で学習する内容がつながるようにまとめられている」といった趣旨の記載および意見がありました。

次に「創意工夫」ですが、各者とも児童の興味・関心を高める工夫がなされております。選定資料によりますと、各者とも「見学や聞き取りなどの作業的、体験的な活動が紹介されている」とのことでした。

また、調査員からの報告によりますと、日本文教出版は、「単元の最初に流れが示されており、子どもが見通しを持ちやすい工夫がされている」とのことです。「補充的な学習・発展的な学習」については、各者とも個に応じた指導の充実に向けて配慮されております。

調査員からは、日本文教出版について「各単元の最後には学習資料があり、どのように考えたり、話し合ったりしたらいいかが書いてあり、発展的な学習を行いやすい」との報告があがってきております。他には、教育出版「小学社会4」の24ページをご覧ください。学校からは「絵や写真が非常に大きく、子どもが考え発見するうえで、細かい所まで見ることができると感じた」という意見があがっております。

また、日本文教出版小学社会6年の58ページをご覧ください。左上①の三

内丸山遺跡の復元模型については、「学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる」との選定資料の記述があり、他者も同様にウェブサイト上で確認することができるようになっております。

最後に「幼小中一貫教育の観点」についてですが、各者ともに中学校への接続を意識した単元構成となっており、小学校2年生までの生活科、中学校の社会科との接続がスムーズにできるようになっております。

ここで、選定委員会での審議について報告いたします。

東京書籍は上下に分かれており、児童への負担軽減かという意見がありました。また、日本文教出版については、89ページや163ページに学習の計画として調べ方などの方法が記載されております。その上に子どもの活動があり、わかりやすいとの意見がありました。加えて、社会科は写真や資料の大切さがある中で、日本文教出版は大きく取り上げられているという意見もありました。

以上で、社会科についての説明を終わります。

新子教育長： はい、いかがでしょうか。

山崎委員： よろしいですか。まず、竹島・尖閣・北方領土の問題についてだけ先やってみますと、日文は、日本固有の領土ということで、5年生にも6年生にも教科書にきちんと記載をされています。東京書籍については、やはり日本固有の領土ということで5年生に記載をされています。6年生はちょっと調べてたら、なかったと思ったんですが、ないですね。

甲村指導主事： はい。

山崎委員： 教育出版は、日本の領土ということで、5年生にでておりました。6年は無かったと思います。いいですね。で、教育出版だけは、他の2社が日本固有の領土で、現在占領されているとかいうような言葉が使われているんですが、教育出版だけは「課題の平和的な解決に向けて、粘り強く努力を続けていく必要があります」というような語り口で書かれています。ここが、ちょっと違う所かなと思ったりします。私は、日文が一番適当かなと思ったりするんですが。巻頭のオリエンテーションのページで写真を使って、何を学ぶか、調べたり話し合ったり、まとめたり、伝えたりの学習の方法、社会科の学習で大切な事が載っています。大変わかり易いと思います。目次のページでは、大単元の学習のねらいや内容がわかるようになっています。こういうところで、子ども達が最初の段階で何を学習するか、どんなふうにするのかという事がよくわかるだろうと思います。教材の最初に「私たちの問題」があって、問題意識を持って調べたり、見学したり、話し合ったりして追求する学習の流れができています。問題解決学習、そういう問題解決型の学習ができるというふうに思います。「学

び方、調べ方コーナー」、特に3・4・5年は充実していて、やり方やヒント・答え等が書かれていて、学習に役立つものと思います。それから先ほどもありましたが、3年生の「私たちの住んでいる市」では、姫路市が出ているのですが、川について出てきています。それから「工場で働く人」は、かまぼこ工場が出てきています。柏原市の場合、大和川とかまぼこ工場がありますので、4年生でこの学習につなげる事ができるというのが利点だと思います。それから、4・5年生で選択できる教材が、多いということで、子ども達の実態に応じて先生方が教材を選択して教える事ができるという、そういう、メリットがあります。最後に各学年、1冊の教科書になっていますので、例えば、6年生ですと政治・歴史・国際これみんな一冊になっていますので、これが上・下に分かれていますと、繋がりをもちにくくなるので、私は、この1冊のほうが、分厚いけれども、いいかなと思ったりもします。続いて東京書籍のほうですが、日文にありましたように、4・5年生で選択できる教材の数を見たときに、東京書籍はちょっと少ないなという事を感じました。それから、学習のすすめ方として、「つかむ・調べる・まとめる・活かす」という学習の流れで、勉強するんですよという事で、各教材に共通して出ていますので、これも問題解決型の学習ができるものと思います。それから、5年生、6年生が、先ほどの6年生は歴史編と政治・国際編を2冊に分かれていて、5年生は国土と職業、工業と産業というふうなわけ方をしているんですけども、2つに分ける、分厚くなるからと思ってそうしたんでしょうが、1冊の方がつながりができるなと思ってみておりました。それから、この辺の所は、意見の分かれる所だろうと思うんですけども、他の2者と比べて東京書籍さんは、6年生の政治・国際編で、現在の首相とか大臣の写真が新聞の写真で出ているんですけども、大変大きく出ておまして、閣議の様子がでていたんですけども、大変大きく、62ページですが、大変大きく出ておりました。他の2者は小さく出ていました。小さく出ておりますけど、どうかなというふうな気がしました。それから、教育出版さんのほうですが、毎時間、「この時間の問い」というのがありまして、最後に「次につなげよう」で終わっています。こういう問いかけをし、まとめをし、問題解決型の学習をすすめるとされています。それから、「学びの手引き」の「集める・読み取る・表す」こういうところには、やり方やヒント・問いかけがあって、学習の役に立つと思います。教出さんには、東大阪市の町工場が5年生の162、163にでておりましたので、私たちは近くだから行かせてもらったんですけど、身近なところでもあったしな一という気がいたしました。それから、4・5年生の選択できる教材は、東京書籍さんと違って、教材が多いので、実態に合わせて選択ができるかなと思っておりました。それから、1冊の教科書で5・6年生となっておりますので、これは、日文さんと同じように、繋がりを大事にして授業ができるかなと思って見ておりました。以上ですが、総合的にみて日文さんが一番適当かなというのが私の見解です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。他に。

田中委員： 私もほぼ同じ意見なんですけども、言われた事と違う観点で見えていきますと、大阪、社会科なんで、地元のところどころで郷土とかね、そういうところへんを、観点で見えていくと、大阪とか関西に近い所の記事というか、説明が多いという意味では日文さんが一番多いとかね、3年生で姫路を中心にページ数を使っていますし、それから4年生でも大阪府の状況もあります、枚方市の状況、それから5年生で大和川も出てますし、先ほどは説明がありました「かまぼこ工場」という意味では一番親しみ易いんじゃないかなというふうに思います。で、東京書籍さんのほうは、中学の社会に繋がるという意味ではいいかなと思うんですけども、先ほどありましたように、選択ができないというところがちょっと不便かなと思いました。東京書籍さんについても、大阪についても東大阪がそんなにページ数がそんなに多くなかったのも、先ほどの観点からいうと日文さんかなと。

新子教育長： はい、ありがとうございました。

近藤委員： 東京書籍。4年生の最初の日本地図と都道府県地図が見やすく、楽しいです。子ども達が喜びそうだなと思いました。それから、自然災害の所では、避難所シュミレーションとか、自分で作る非難計画等、自分たちはどうするのかというのを具体的に考える内容が充実していました。5・6年生では2冊に分かれて1冊が軽くなるのがありがたいなと思いました。

教育出版。字や図などが大きく、見易いなと感じました。5年生ではアイヌ文化の紹介が詳しいのがいいなと思いました。6年生の最初のところのパラリンピックについて載っていて、開けた所にちょっとパラリンアートというのが紹介されているのがあって子ども達に見てもらいたいなというふう感じました。日本文教出版。4年生の「暮らしを支える水」では、大阪府のことなのでとてもわかり易いなと思います。5年生でも、出てくる子ども達が大阪市に住んでいると言う設定なので、気候などが大阪市との比較になっているので実感があって分かり易いなと思いました。環境では大和川も出てきました。4年生の自然災害では、阪神大震災のページがあります。ちょうど、4年生の、保護者の子ども時代にも当たるので、子どもによく知ってもらいたいし、学校でも家庭でもたくさん話を聞いて欲しいなというふう感じました。以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございました。

西村委員： 東京書籍さんは、皆さんあったように、ちょっと分冊になっているのがかえって扱いにくい時もあるかなというのと、あと、問題を投げかける子ども達の、

セリフが出てくるのが、コラム式になっていなくて、文章の中に入っているの、どこまでが、文章でどこまでがコラムというか問いかけなのかというとてもわかりにくいかなというふうに思いました。日文さんと、教育出版のほうは、吹き出し型になっているので、そのあたりは、こんどは見やすいかなというふうに思います。高学年になっても、ルビ・問いかけがあった方が何を目当てにするのかがわかり易いと思いますのでとても深めていく事になるのかなと思いますし、日文さんの方は、コラムが非常に多くて、興味深くて、先ほどの音楽ともちょっと似ておりましたが、子ども達が、興味持つところがいろいろ幅が広がるかなというふうに思いますし、端っこに特に歴史の場合には左に6年生の教科書、ここに時代がついているので、これは非常にわかり易いなと思いました。今、どこに、どの時代をやっているのかなとか、視覚的にわかり易いし、分量多いけど意外と重くないので、はい、これは社会の教科書としてとても読み易いなと思いました。はい、以上です。

新子教育長： はい、ありがとうございます。3者ともさほど大きな差はないかなと思うんですが、全体的に委員さんのお話を聞かしていただいて、まず、教材いうんですかね、関西の事、柏原の事も含めた事が多く掲載されておるという日文、あと、様々な面で工夫されておる、問題解決的学習が児童にできるというふうな内容等、ということで日文さんのほうでいかがでしょうか？

委員全員： はい。

新子教育長： ということで今、7教科について、本日行わせていただいたのですが、この後、連絡等、ご相談したいことがございますので、本日、教科書採択についてはここまでとさせていただきますので、よろしいでしょうか。

引き続きまた、また、委員会からの連絡事項等させていただいて、次の開催については、事務局の方からご連絡させていただくということでよろしいですか。

8月の行事予定をご確認ください。よろしいでしょうか。

そしたら、指導課の方からですが。

石田課長： 私のほうから1点だけ、本日の採択で決まったことについて、私の方で再度確認させていただいてよろしいでしょうか。

では、お願いいたします。

最初の教科の方から 理科の方からお願いいたします。理科は、啓林館で間違いないでしょうか。

では、順番に参ります。生活の方ですが、大日本の方で間違いないでしょうか。

家庭科の方ですが、東京書籍。

道徳の方ですが、同じく東京書籍。  
書写の方ですが、書写は光村。  
音楽の方ですが、教芸 教育芸術社。  
本日最後は社会でございますが、日本文教出版。  
お間違いないでしょうか。ありがとうございました。確認させていただきました。

新子教育長： 以上をもちまして、定例教育委員会会議を終了いたします。  
このあと、事務連絡等ございます。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和元年 月 日

柏原市教育委員